

県立静岡がんセンター公開講座2015「知って役立つ、がん医療」

静岡がんセンター 公開講座 2015 第12弾 Vol.1 知って役立つ、がん医療



県立静岡がんセンター 総長 山口 建(やまぐち・けん)氏

遺伝子の傷が原因

私たちの体は約60兆個の細胞でできています。受精卵から細胞が増殖、分化していく過程で臓器などがつくられます。その基本となるのが細胞内にある遺伝子、DNAで

がんという病気ーがん向き合う心構え

がんは、その遺伝子に異常が起ることで発生することが数十年の研究で明らかになり、約2万個ある遺伝子のうち、がんに関係するのは、約500個と言われています。

放射線や食べ物などに含まれる発がん性物質がこの遺伝子に直接働いた場合、あるいは遺伝子の近くにある物質に影響を与え、発生する活性酸素が遺伝子を傷つける

放射線治療では、IT技術の進歩で、かなり正確に病変を狙えるようになりました。また、陽子線治療は、病変をピンポイントで叩く新しい技術です。薬物療法でも新しい分子標的薬が数多く開発され、副作用が昔ほどつらくなくな

これまでの国のがん対策

がんは、その遺伝子に異常が起ることで発生することが数十年の研究で明らかになり、約2万個ある遺伝子のうち、がんに関係するのは、約500個と言われています。

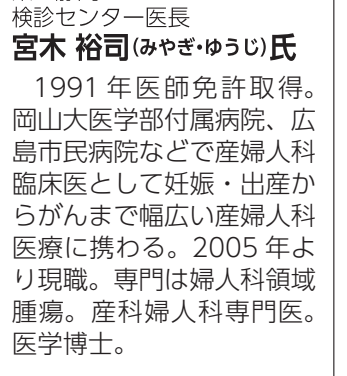
放射線治療では、IT技術の進歩で、かなり正確に病変を狙えるようになりました。また、陽子線治療は、病変をピンポイントで叩く新しい技術です。薬物療法でも新しい分子標的薬が数多く開発され、副作用が昔ほどつらくなくな

がん登録することで、各種の対策に生かされています。それ以外にも、個別の悩みへの対策や、緩和ケアの研修、普及啓発、就労支援、小児がん対策も進めています。

この対策の大きな柱は、「がんにかかる人を減らすこと(予防)」「早期に発見すること(検診)」「がんを治すこと(治療)」です。

会場では、事前や当日寄せられた質問を中心に、質疑応答が行われました。その一部を紹介します。

質疑応答



県立静岡がんセンター 検診センター医長 宮木 裕司(みやぎ・ゆうじ)氏

1991年医師免許取得。岡山大学医学部付属病院、広島市市民病院などで産婦人科臨床医として妊娠・出産からがんまで幅広い産婦人科医療に携わる。2005年より現職。専門は婦人科領域腫瘍。産科婦人科専門医。医学博士。

この対策の大きな柱は、「がんにかかる人を減らすこと(予防)」「早期に発見すること(検診)」「がんを治すこと(治療)」です。

がん登録することで、各種の対策に生かされています。それ以外にも、個別の悩みへの対策や、緩和ケアの研修、普及啓発、就労支援、小児がん対策も進めています。

会場では、事前や当日寄せられた質問を中心に、質疑応答が行われました。その一部を紹介します。

がん検診の基本条件

ここでいうがん検診とは、厚生労働省から地方自治体に通知されて行われている公的なもので、早い段階で発見し、早期治療でがんによる死者数を減らすのが、その目的です。

「がん検診を行う検査方法があること」「検査が安全であること」「検査の精度がある程度高いこと」「治療法があること」です。

この対策の大きな柱は、「がんにかかる人を減らすこと(予防)」「早期に発見すること(検診)」「がんを治すこと(治療)」です。

がん登録することで、各種の対策に生かされています。それ以外にも、個別の悩みへの対策や、緩和ケアの研修、普及啓発、就労支援、小児がん対策も進めています。

会場では、事前や当日寄せられた質問を中心に、質疑応答が行われました。その一部を紹介します。

がん検診ー必ず受けましょう

大勢に対して実施が難しいものなとは、がん検診にふさわしくありません。また、「治療法があること」で早期発見すれば、救命が可能になります。このように総合的に見て、がん検診を受ける利点が多くなる人が多く、死亡の重大な要

最後に、本県のがん検診の推奨受診率は肺がんが32.4%、胃がんが13.1%で、未受診の方の中にまだ見つからないがんの方がいると考えられます。未受診の方は、がん検診を必ず受けましょう。



県立静岡がんセンター 医監 秋月 玲子(あきづき・れいこ)氏

2002年慶大医学部卒。05年厚生労働省に入省。国際保健、労働衛生を担当し、08年から10年まで米ハーバード公衆衛生大学院に留学。11年から13年までがん対策推進基本計画の策定に携わった。14年より現職。

会場では、事前や当日寄せられた質問を中心に、質疑応答が行われました。その一部を紹介します。